

2 柿崎地域

1) 地域の概要

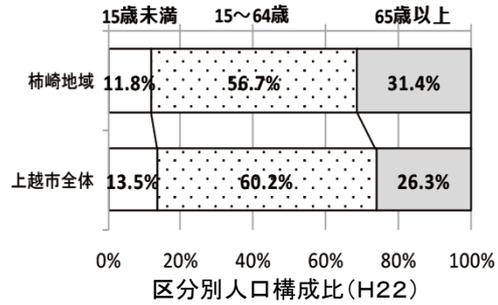
《位置》

●柿崎地域は、上越市の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道8号、北陸自動車道や柿崎駅を中心に市街地が形成されている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●本地域の西部は昭和54年12月に柿崎都市計画区域（非線引き都市計画区域[※]）として当初編入指定され、一部に用途地域が定められています。また、本地域の東部は都市計画区域外になっています。

※非線引き都市計画区域：市街化区域と市街化調整区域の区域区分を行わない都市計画区域



出典：国勢調査

1 地域資源

●市街地には、バスケットコートが複数面とれるメインアリーナなど多様なスポーツで利用できる柿崎総合体育館や照明付き屋外運動場を含む柿崎総合運動公園、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、ゴルフ場などがあります。また、柿崎海岸は柿崎海岸自然環境保全地域となっています。



柿崎総合運動公園

●田園地域には、米山からの水源により一面に広がる農地からなる田園景観があります。



米山と田園景観

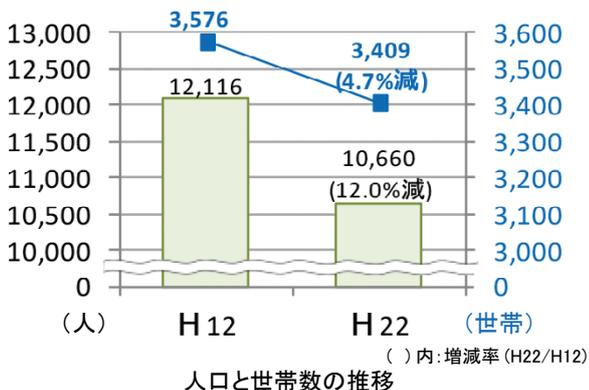
●中山間地域には、霊峰米山（標高993m）を中心に、佐渡弥彦米山国定公園及び米山福浦八景県立自然公園が広がります。また、名水百選の大出口泉水、柿崎川ダムなどの水に関わる資源があります。

●本地域には、刺網漁が盛んな柿崎漁港があります。

2 人口・世帯数

●平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。

●平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



2) 地域の現状と課題

●行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境・農業環境の確保に取り組む必要があります。

●日本海に面する沿岸部や中山間地域をもつ本地域では、津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食、新潟県中越沖地震において被災した地域など宅地防災が必要な地域の把握などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

●自然資源や観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などをいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『地域拠点を中心に暮らし続けられる地域』や、『工業、農業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

●柿崎区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療、福祉などの日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。

●津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援、宅地造成における取組や防災面を考慮した土地利用などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。

●自然資源や観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成の促進に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を推進します。

工業系

- 工業集積地においては、産業維持の観点から、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 流通業務地においては、北陸自動車道及び一般国道8号に近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。

商業系

- 柿崎駅周辺の商業集積地では、まちのにぎわい創出や市民生活の利便性向上を図るための商業施設などの集積を誘導します。

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

集落

- 田園地域及び中山間地域では、集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

交流・連携

- 米山を背景に佐渡弥彦米山国定公園・米山福浦八景県立自然公園に広がる森林資源及び優良な水源、柿崎海岸自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、柿崎川ダム、ゴルフ場などの観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

2 拠点の形成 柿崎区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 柿崎区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない生活機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



柿崎区の中心的エリア

3 道路ネットワークの確保

- 拠点間**
- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所への改善に向けた道路整備を促進します。
- 地域内**
- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

- 都市計画道路**
- 幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢の変化や地域の実情に応じて、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
 - 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

- 地域全体**
- これまでの鉄道や路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線の統合や経路、ダイヤの見直しなどにより、地域公共交通を維持・確保します。
- 鉄道**
- 利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、強風対策などを働きかけます。

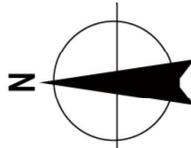
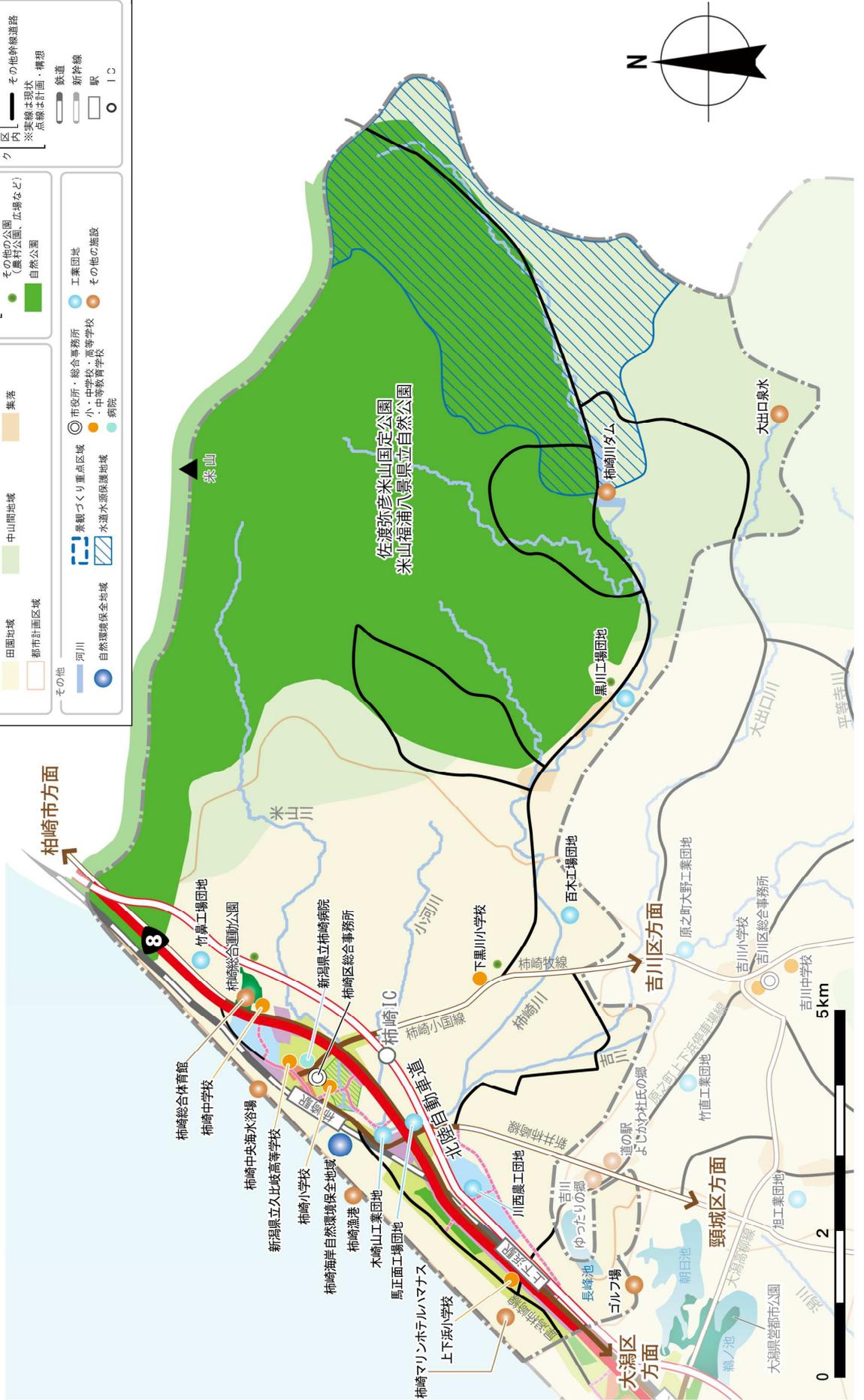
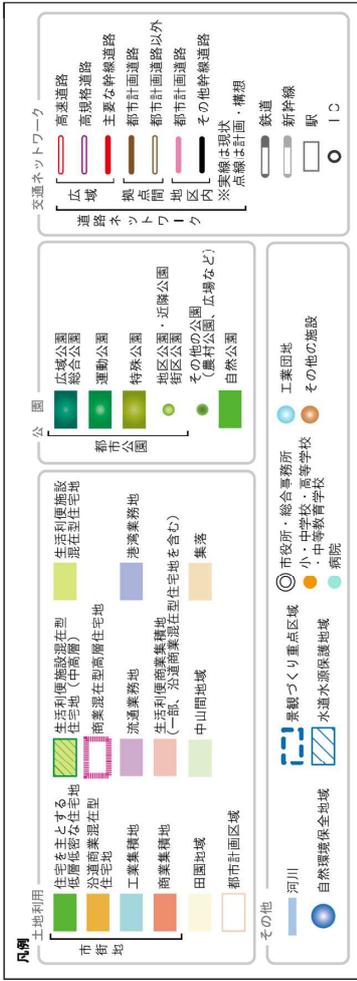
5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- 下水道**
- 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。
- 浸水対策**
- 県により管理される二級河川の吉川、米山川、柿崎川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。
- 津波対策**
- 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。
- 地域防災力**
- 木造建物の耐震化、克雷住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。
- 空き家対策**
- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- 土砂災害対策**
- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
 - 災害発生時に滑動・崩落の危険性が高い大規模盛土造成地についての調査や、必要に応じた対策を検討するとともに、的確なリスク情報開示などに継続して取り組みます。
- 海岸浸食対策**
- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

6 都市環境の保全

- 公害防止**
- 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用を検討するなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- 緑地空間**
- 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。
- 防風林**
- 海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図 (柿崎地域)



3 中郷地域

1) 地域の概要

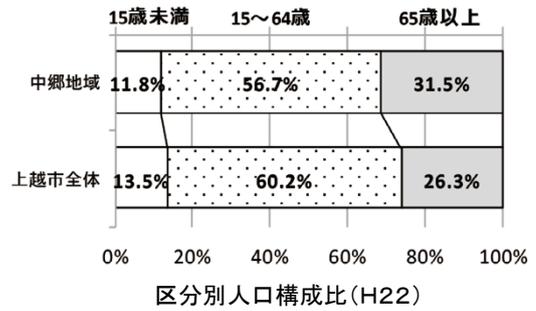
《位置》

●中郷地域は、上越市の南部、妙高市(旧新井市)の南側に位置し、一級河川片貝川、渋江川沿川を中心に集落が形成された地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●平成10年4月に新井都市計画区域として当初編入指定され、平成22年3月に新井都市計画区域と妙高高原都市計画区域が統合し、現在の妙高都市計画区域(非線引き都市計画区域※)が指定されました。現在も地域の一部が妙高都市計画区域に含まれ、西側の山岳地は都市計画区域外になっています。

※非線引き都市計画区域：市街化区域と市街化調整区域の区域区分を行わない都市計画区域



出典:国勢調査

2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 本地域では、土砂災害の危険がある区域が存在することから、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。
- 自然資源や研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源をいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『妙高山を背景に豊かな自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『産業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 中郷区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 河川の適正な維持管理、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、上信越自動車道の4車線化の促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組めます。

1 地域資源

- 本地域には、妙高山を背景とする豊かな自然環境が広がっています。
- 二本木駅西側には1920年に操業を開始した大規模な工場が立地し、医薬品原料など特色ある製品を直江津港から海外に向けて輸出しており、地域において欠かせない雇用の場となっています。
- 本地域には、コンサートなどが楽しめる広々としたホールや研修室、和室、創作室、学習室、陶芸工房などの研修交流施設を備えるはとびあ中郷があります。
- 本地域には、縄文時代の遺跡に多く見られる同心円状の空間をイメージして造られている泉縄文公園があります。また、恵まれた自然環境をいかしたゴルフ場、レジャー施設など集客性のある施設があります。



松ヶ峯周辺の桜と妙高山



泉縄文公園

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 本地域内にある居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を目指します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然

- 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- は一とびあ中郷などの研修交流施設や泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。



は一とびあ中郷

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

連携

- 本地域の一部が妙高都市計画区域に含まれることから、県が定める広域都市計画マスタープランを踏まえ、妙高市と連携を図りながら土地利用を進めます。



北国街道

2 拠点の形成 中郷区の中心的エリア

※ 中心的エリア：総合事務所周辺

- 中郷区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点や妙高市との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



二本木駅前

3 道路ネットワークの確保

- 広域** ● 市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上信越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。
- 拠点間** ● 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- 地域内** ● 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

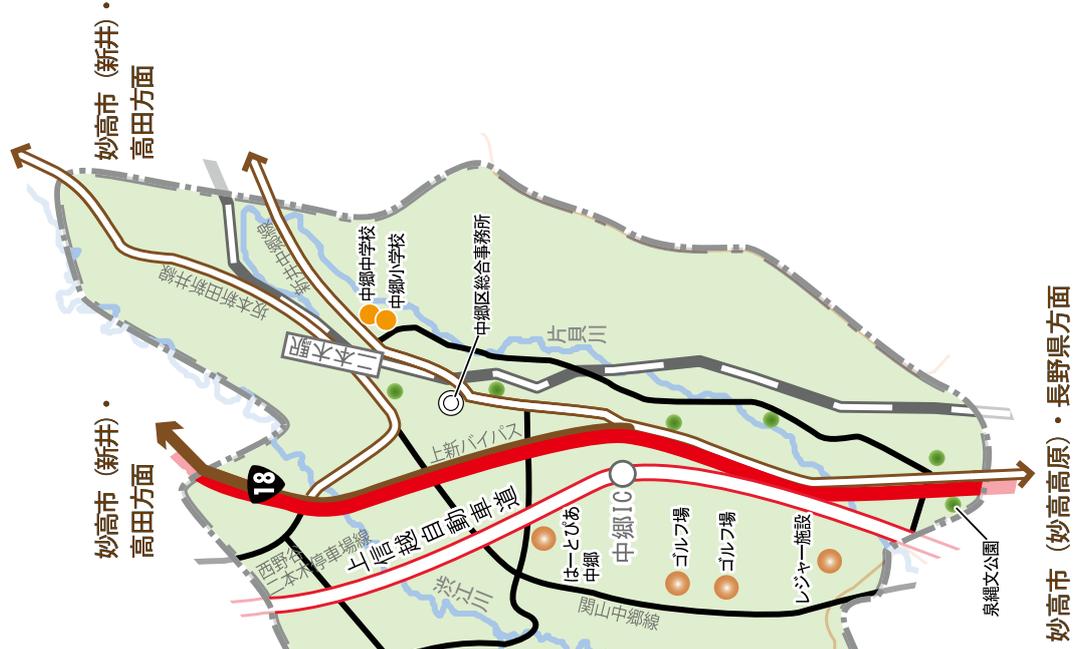
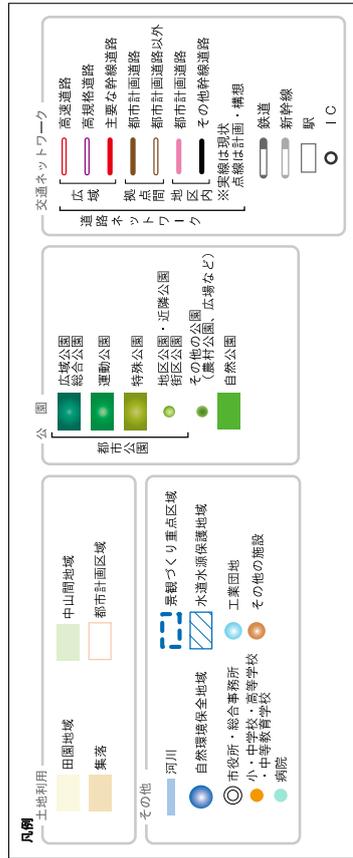
4 公共交通ネットワークの確保

- 地域全体** ● これまでの鉄道や乗合タクシーなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、乗合タクシーの利便性向上や運行の見直しなどにより、地域公共交通を維持・確保します。
- 鉄道** ● 利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- 浸水対策** ● 県により管理される一級河川の片貝川、渋江川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。
- 土砂災害対策** ● 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- 地域防災力** ● 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保に努めます。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。
- 空き家対策** ● 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図(中郷地域)



4 頸城(東部)・吉川・三和地域

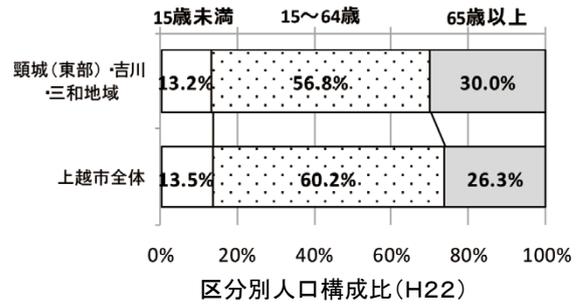
1) 地域の概要

《位置》

●頸城(東部)・吉川・三和地域は、上越市の北東部に位置し、主に田園地域である頸城区(東部)・三和区、田園地域と中山間地域である吉川区の地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●本地域は全域が都市計画区域外になっています。



出典: 国勢調査に基づき集計

1 地域資源

- 田園地域には、一面に広がる農地、屋敷林に囲まれた集落、新潟県景勝百選である大池いこいの森、自然環境保全地域に指定されている谷内池、道の駅よしかわ杜氏の郷、酒をテーマとした坂口記念館、軽便鉄道・蒸気機関車が保存されているくびき野レールパーク、温泉温浴施設(吉川スカイトピア遊ランド、吉川ゆつたりの郷、三和ネイチャーリングホテル米本陣)などの観光・文化資源があります。
- また、多目的ホールや機能回復室、トレーニングルーム、生活工房、会議室、研修室や屋外施設などの研修交流施設を備えるユートピアくびきがあります。
- 中山間地域には、豊かな森林、農地、尾神岳などの自然資源のほか、尾神岳にはハイキングやスカイスportsなどの自然をいかしたレジャー体験を提供する観光資源などがあります。



大規模な優良農地



レジャーや自然環境のある尾神岳

2) 地域の現状と課題

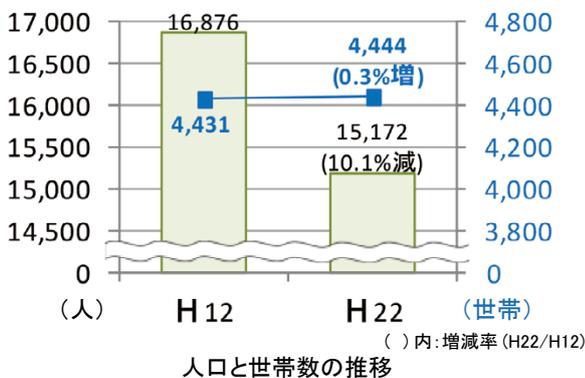
- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみがかきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『豊かな田園・自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口が減少傾向、世帯数が増加傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高い状況になっています。



4) 地域づくりの方針

- 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組めます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 居住地、農地、工業地、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる尾神岳、大池いこいの森、谷内池自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、道の駅よしかわ杜氏の郷、坂口記念館、くびき野レールパーク、温泉温浴施設などの観光・文化資源、ユートピアくびきなどの研修交流施設の活用により、市内外との交流・連携を支援します。



大池

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

2 拠点の形成 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



吉川区の中心的エリア

3 道路ネットワークの確保

広域

- 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や路線バス、スクール混乗バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、重複区間などでの路線の再編成や交通不便地域の解消、利用状況に応じた運行内容の見直し、需要に合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤ設定などを働きかけます。
- ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便を働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される一級河川の保倉川、桑曾根川、二級河川の吉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

5 安塚・浦川原・大島地域

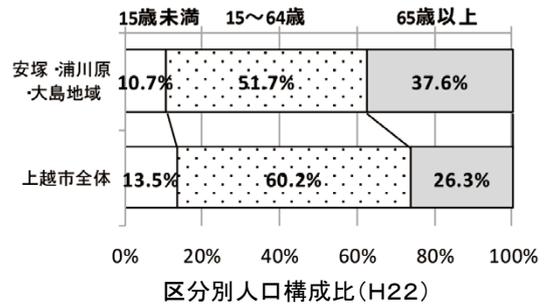
1) 地域の概要

《位置》

●安塚・浦川原・大島地域は、上越市の東部に位置し、田園地域と中山間地域の接点となっている浦川原区、主に中山間地域である安塚区・大島区の地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●本地域は全域が都市計画区域外になっています。



出典:国勢調査

1 地域資源

●本地域には、豊かな自然環境に囲まれた集落の中で人々が生活を営む中山間地域が広がっています。



自然環境に囲まれた集落

●国指定文化財である虫川の杉、小黒専敬寺や顕聖寺、安塚神社(諏訪神社)などの神社仏閣、雪室(雪中貯蔵施設)を併設した道の駅雪のふるさと やすづか、あさひの里田麦ぶなの森園、全長80kmのロングトレイルが楽しめる信越トレイル、冬はスキー、夏は温泉や食事などが楽しめる雪だるま高原キューピットバレイ、温泉施設(ゆきだるま温泉雪の湯)など、地域の自然や歴史、雪をいかした観光・文化資源があります。



越後田舎体験

●山々に囲まれた美しい棚田で収穫された米、日本酒、そば、自然薯などの特産品があり、これらの物産品を扱う雪だるま物産館などの観光資源があります。また、自然散策・農林業体験・環境学習・民泊などの数多くの体験メニューを提供する越後田舎体験に取り組んでいます。

●安塚区では、「雪のふるさと安塚」をキャッチフレーズに雪をテーマにした様々な取組が、一年を通じて地域ぐるみで展開されているほか、牧区も含む4つの区では「灯の回廊」と称した親雪連携イベントを実施しています。

●また、安塚区内には、雪室をいかした8か所の雪冷房施設が整備され、地域全体で雪の利活用に取り組んでいます。

●中山間地域には、霧ヶ岳、菖蒲高原、直峰松之山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池などの自然資源があります。

2) 地域の現状と課題

●行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。

●将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

●上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみがかきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『豊かな地域資源や自然環境の中で暮らし続けられる地域』としての役割や、水と緑・歴史などの地域資源と自然環境をいかした体験交流事業による市内外からの観光交流など『産業、自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を進める地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

●浦川原区、安塚区、大島区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。

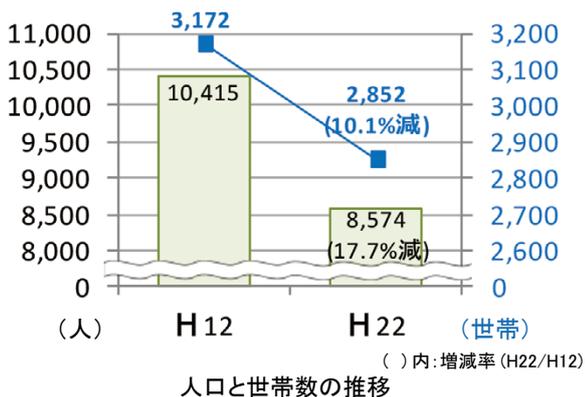
●将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

●自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

2 人口・世帯数

●平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。

●平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 本地域内にある商業地、居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる霧ヶ岳、菅蒲高原、直峰松の山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池、豊かな森林、水源保護地区などの様々な自然資源の活用や、虫川の大杉、小黒専敬寺、願聖寺、安塚神社（諏訪神社）、道の駅雪のふるさとやすづか、あさひの里田麦ぶなの森園、信越トレイル、雪だるま高原キュービットパレイ、温泉施設、雪だるま物産館などの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を支援します。



あさひの里田麦ぶなの森園（大島区）

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

2 拠点の形成 浦川原区、安塚区、大島区 の中心的エリア

※ 中心的エリア：総合事務所周辺

- 浦川原区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 安塚区、大島区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

3 道路ネットワークの確保

広域

- 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所への改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



上越魚沼地域振興快速道路

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や路線バス、スクール混乗バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、利用状況に応じた運行内容、ダイヤの見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤの設定などを働きかけます。
- ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便を働きかけます。

5 住民参加による景観づくりの推進

- 景観づくり重点区域における魅力ある景観の形成を図るため、安塚区での住民参加による景観づくりの取組を引き続き支援するほか、浦川原区、大島区で取り組まれている景観の維持・保全の取組について、支援します。

6 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される一級河川の保倉川、小黒川、船倉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、大雪住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

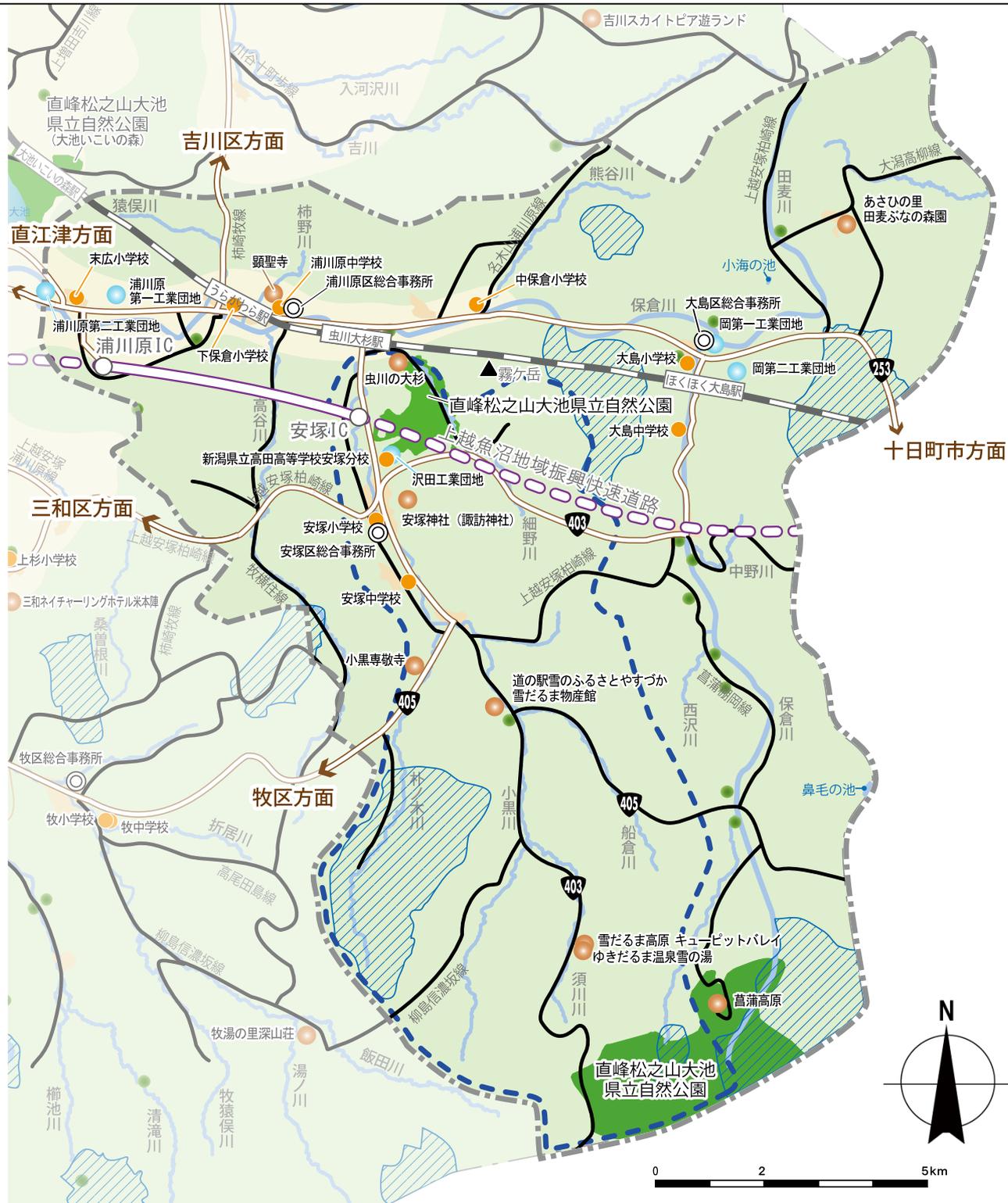
空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

7 雪の利活用の取組の推進

- 雪を強みとしたク・リ・親雪の取組として、地域住民との協働により、安塚区内における雪室及び雪冷房施設の利活用を引き続き推進するとともに、地域連携による親雪連携イベントなどの観光施策と連携した取組を支援します。

地域づくりの方針図(安塚・浦川原・大島地域)



土地利用	公園	交通ネットワーク	その他
田園地域	広域公園	高速道路	河川
中山間地域	総合公園	高規格道路	自然環境保全地域
集落	運動公園	主要な幹線道路	景観づくり重点区域
都市計画区域	特殊公園	都市計画道路	水道水源保護地域
	地区公園・近隣公園	都市計画道路以外	市役所・総合事務所
	その他の公園	都市計画道路	小・中学校・高等学校
	(農村公園、広場など)	その他幹線道路	中等教育学校
	自然公園	※実線は現状	病院
		点線は計画・構想	工業団地
		鉄道	その他の施設
		新幹線	
		駅	
		IC	